

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3 (4) 高等学校
				領域名	E S D
研究課題	<b>学校全体で取り組む課題</b> (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	ほっかいどうしやりこうとうがっこう 北海道斜里高等学校 (132人)				
所在地 (電話番号)	〒099-4116 北海道斜里郡斜里町文光町5番地1 (0152-23-2145)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.shari.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード	世界自然遺産・知床，総合学科教育，E S Dの普及，評価				
研究結果のポイント	<b>【取組①】</b> E S Dを学校全体で体系的に推進するために，E S Dの観点を踏まえたシラバス（年間指導計画）を作成した。 <b>【取組②】</b> 各教科の単元における評価規準をE S Dの観点を踏まえて作成し，それを基に学習指導案を作成して授業を行った。 <b>【取組③】</b> 教科横断的な学習を踏まえた課題研究（仮称：知床学）のカリキュラムを作成した。 <b>【取組④】</b> 生徒の自主的な課外活動が，外部のコンテスト等で高く評価された。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動の改善・充実，及び学校の教育活動全体へのE S Dの波及  
 ～ 観光教育による，地域に誇りを持ち，地域の持続発展に貢献できる人材の育成 ～

### (2) 研究主題設定の理由

#### ア 生徒の現状とこれまでの取組

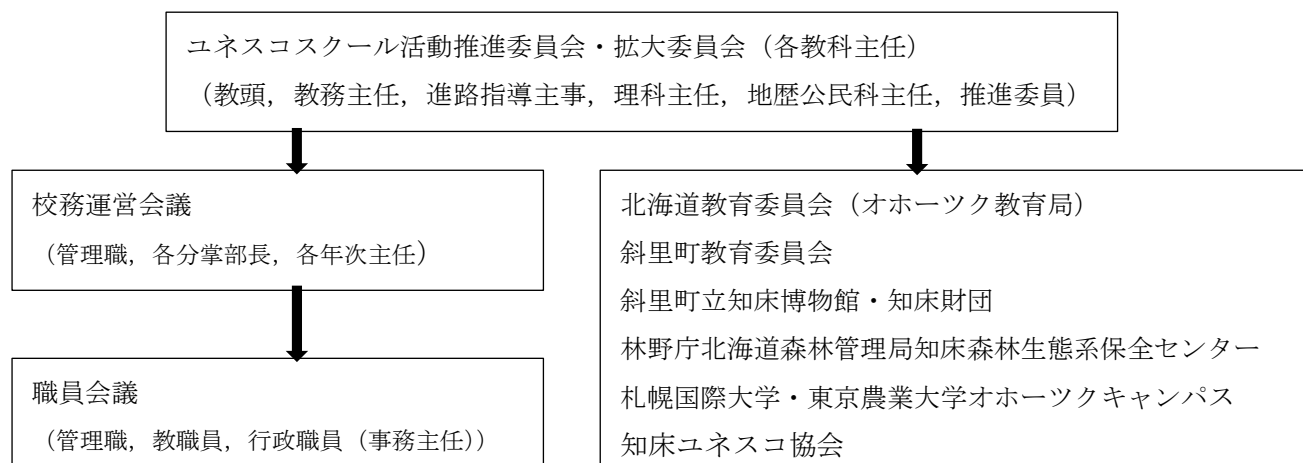
知床の豊かな自然環境や独自の歴史・文化が身近にあるがゆえに，生徒はそれらの希少性・重要性への気付きや，それらを持続発展させていく必要性の認識が不十分であることが課題であった。そこで，総合学科への学科転換を機に，地域の豊かな自然を教材とした学校設定科目「知床自然概論」を設定するとともに，特別活動として「史跡巡検学習」，地域産業と連携した商業科目「課題研究」等を導入し，地域の教育力を活用している。また，大学との連携を通して地域理解を促す教育に取り組んでいる。これらの実施に当たっては，総合学科の学校設定科目「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」とも併せて，報告会等の発表の機会を取り入れ，自ら考え，学び，伝え，行動する積極性や表現する能力の育成等，課題解決を目指している。なお，地域をフィールドとした実践によって，本校はユネスコスクールとして加盟承認されている。

#### イ 研究主題設定の理由

このような経緯から，生徒に，地域の魅力等に気付き，誇りを持って情報発信する気概，自ら考え，学び，伝え，行動する積極性や表現する能力等を育み，魅力的な学校としての持続発展や，将来の地域を担い，地域を持続発展させる人材の育成へとつなげることを目的として実践研究を行うこととしている。本研究指定は2期目であるが，これまで実践してきた「世界自然遺産・知

床」等の地域をフィールドとしたESD活動を検証し、取組の改善・充実を図るとともに、ESDの理念を全教科・科目，特別活動，課外活動へ波及させ，学校の教育活動全体を通して，生徒に関わる課題の解決に向けた実践を行うこととした。なお，本研究では，1年目は「知床・産業系列」における観光系科目での学習活動を，2年目は他教科等に拡充した学習活動を，中心的な取組として位置付けた。

### (3) 研究体制



### (4) 2年間の主な取組

平成 29 年 度	<p>ア 管理職の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営シラバスへのESD活動推進の明記(項目立て)(4月)</li> <li>・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果を教職員へ周知(4月・5月)</li> </ul> <p>イ ユネスコ活動推進委員会等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進・評価(検証)方法等検討, 各教科・科目における取組指標の作成, 全体提示(5月)</li> <li>・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集(12月)</li> <li>・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知(4月・5月)</li> </ul> <p>ウ 教職員の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会の実施(実践の方向性等の明確化)(6月)</li> <li>・具体的取組の推進(中心的取組準備, 改善工夫, 実施, 各教科・科目でのアプローチ)(通年)</li> <li>・校内研修会(視察報告・協議会報告等)の実施(12月)</li> <li>・ESDに関する公開授業, 研究授業, 合評会等の実施(11月)</li> <li>・学校評価(自己評価, 学校関係者評価等)へのESD関係項目の導入(検討), 評価の実施(実践の検証)(1月)</li> <li>・成果と課題を踏まえた次年度学校教育全体計画, 指導方法等の改善(1月)</li> <li>・ESDの観点を踏まえたシラバス作成(3月)</li> </ul> <p>エ 生徒の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育に関わる活動, 生徒会活動, 課外活動等における自主的な活動の推進(通年)</li> <li>・取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告(11月～1月) (保護者, 中学生, 関係者, 地域住民等への報告)</li> </ul>
平成 30 年 度	<p>ア 管理職の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の実践を踏まえた学校経営シラバスへの明記(4月)</li> </ul> <p>イ ユネスコスクール活動推進委員会等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知(4月)</li> <li>・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集(6月)</li> <li>・校内研修会(視察研修報告, 指導方法改善への方策等)の実施(7月)</li> <li>・成果報告書(最終報告)の作成(12月～1月)</li> </ul> <p>ウ 教職員の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会の実施(課題解決・改善の方向性等明確化)(7月)</li> <li>・ESDの視点に立った学習指導案の作成, 公開授業, 研究授業, 合評会等の実施(10月)</li> </ul>

エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、学校関係者評価（E S D関係項目）実施（11月・12月）</li> <li>成果と課題を踏まえた次年度の全体計画等の改善，教育課程の編成へ反映（12月～）</li> <li>前年度の反省を踏まえたキャリア教育に関わる活動，生徒会活動，課外活動等における自主的な活動の推進（通年）</li> <li>取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告（保護者，中学生，関係者，地域住民等への報告）（11月～1月）</li> <li>E S Dに関する意識調査の実施（7月・11月）</li> </ul>
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

教育課程上の全ての教科・科目，総合的な学習の時間，特別活動，課外活動においてE S Dの理念を踏まえた教育活動を行うこととするが，実施に当たっては，1年目は本研究の中心的な教科・科目や特別活動等を位置付けた。そして，2年目（今年度）は昨年の成果を踏まえて，他の教科・科目等へ波及させるための研究を行った。具体的には，E S Dの観点を踏まえたシラバス（年間指導計画）を作成するとともに，E S Dの観点を踏まえた評価規準と学習指導案を作成して，授業を行った。その際，実施可能な単元や授業内容等からアプローチを行った。

### (2) 具体的な研究活動

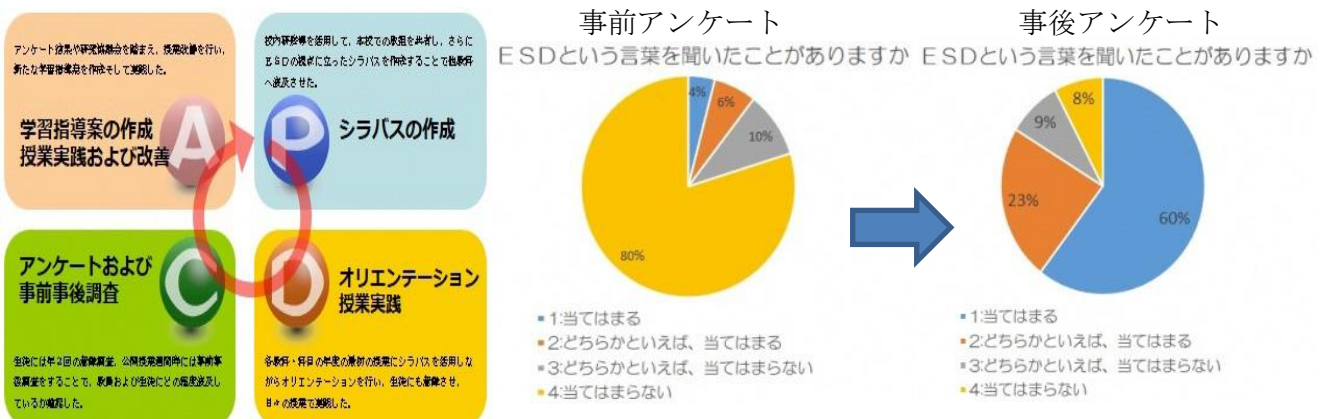
今年度は，以下の四つの取組を中心に研究を行った。なお，これらの取組の評価は生徒へのアンケート調査と教員の授業における事前・事後調査（ワークシート等の改善）で行った。

- 【取組①】今年度は，昨年度の「知床・産業系列」での成果を踏まえて，他教科等へ波及させるために，E S Dの観点を踏まえたシラバスを作成するとともに，E S Dを意識するための校内研修を重ねた。
- 【取組②】昨年度はE S Dの視点に立った学習指導案を試行的に作成したが，他の教科等へ波及させるため，今年度は全ての教科・科目において，E S Dの視点に立った学習指導案を作成し，研究授業を行った。その際，E S Dの観点を踏まえた評価規準も合わせて作成した。
- 【取組③】特色ある教育課程を編成するため，現1年次生が来年度以降に履修する教科横断的な学習（仮称：知床学）に関するカリキュラムの作成を行った。
- 【取組④】「知床・産業系列」関連科目を選択した生徒による自主的な課外活動を支援した。

ア 「全国高等学校観光選手権大会」及び「RESAS地方創世アイデアコンテスト」に出場  
 イ 本校生・北大生・議会モニター・議員による政策検討への生徒実践発表

### (3) PDCAサイクルへの取組について

E S Dの視点に立った学習指導の評価規準を基に，下記のように行った。



## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○【取組①】

E S Dを学校全体で体系的に推進するために、E S Dの観点を踏まえたシラバス（年間指導計画）を作成した。また、そのためにE S Dに関わる様々な研修を通して教職員の意識改革を図った。

○【取組②】

1年目に「E S Dの視点に立った学習指導案」を試行的に作成したが、今年度は評価方法等を再検討し、従来の観点別評価に加えて、「E S Dの七つの視点に立った能力・態度」を踏まえた評価規準を作成した。それを基にして各単元の学習指導案を作成して研究授業を行った。生徒アンケートからE S Dを意識した授業をすることにより、深い学びにつながっていることが実感できた。

単元	指導内容及び教師の活動	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点
①例13 $\sin\theta + \sqrt{3}\cos\theta$ の定形		・説明を聞きながら理解する。		・三角関数の合成することができる(○1)
②練習37 (1) $\sqrt{3}\sin\theta + \cos\theta$ (2) $\sin\theta - \cos\theta$		・例13を参考に問題を解く。 ・黒板に書かれた出題の解答を利用し、さらに理解を深める。	・ $\alpha$ と $\beta$ を求めることに注意。 ・ $\alpha$ と $\beta$ の求め方を十分に理解していない生徒がいないか確認。	・筋道を立てて解くことができる。(○)

単元の評価基準	A 関心・意欲・態度	B 主体的な学び	C 学びの技能	D 知識・理解	観点別評価基準						
					① 主体的に学ぶ態度	② 主体的な学びの態度	③ 主体的な学びの態度	④ 主体的な学びの態度	⑤ 主体的な学びの態度	⑥ 主体的な学びの態度	⑦ 主体的な学びの態度
本時の評価基準	A 関心・意欲・態度	B 主体的な学び	C 学びの技能	D 知識・理解	[批判]	[発表]	[多面]	[協働]	[協力]	[創造]	[参加]
他の評価基準											
この評価した生徒への示唆	高：三角関数を合成する際に、その思考過程を併記に記載している。 中：三角関数の合成をすることを理解している。 低：三角関数の合成することが理解できなかった。 個別に課題解決場について監視し、思考の糸口について助言する。										

【学習指導案（左）と評価規準表（右）の一部抜粋（数学）】

○【取組③】

先進校視察を重ね、本校独自の教科横断的な学習（仮称：知床学）に関するカリキュラムを作成し、次年度より進める準備ができた。

○【取組④】

「観光ビジネス応用・観光英語」の授業において、今年度は更にE S Dの視点と地域・大学のつながりを意識しながら全国高等学校観光選手権大会（通称：観光甲子園）へ向けて取り組んだ。その結果、決勝大会へ進出を果たし銀賞（訪日部門3位）という成果を残した。また、RESAS地域創世アイデアコンテスト（内閣府地方創生推進室主催）についても、全国決勝大会へ進出を果たした。データの信憑性を確かめるために、外国人観光客を相手に実地調査を行い、物怖じせず積極的に声をかけるなど、「主体的に自らの役割を自覚し、仲間と協働する姿勢」を見ることができた。



●【取組③】

地域コーディネーターの確保と、民間の講師の選定が今後の課題である。

●【取組④】

地域との連携をより一層強化し、生徒が深い学びにつながるよう意識しながら座学と実学との融合を図ることが課題である。

4 今後の取組

これまで行ってきた取組を継承し、持続可能な教育活動を行っていく。また、地域との協力関係を強化し根付かせ、地域の学校としての機能を充実させたいと考えている。